

事例研究報告

就労のために必要な コミュニケーション力を高める指導

～高等部生徒が指示や指摘に対して
適切な応答ができるための指導～

児童・生徒の実態

高等部生徒（自閉症）

●コミュニケーションの実態

- ・周囲やペアへの言葉がけが苦手で、自分だけのペースになりがちになる。
- ・自分から言葉で表現をするのが苦手で、母親や教員に相談や質問ができず、質問すると少しずつ話ができる。
- ・注意や指摘を受けた際の反応
 - 陰しい表情をする
 - 「頭が痛いので保健室へ行きたい」と言い逃れようとする
 - 「え～」「それはちょっと」等の言葉が出る
 - 謝罪の言葉が出にくい。

指導の目標

指示や指摘を受けた際、
第一声が「はい」で
返すことができる。



教員の願い

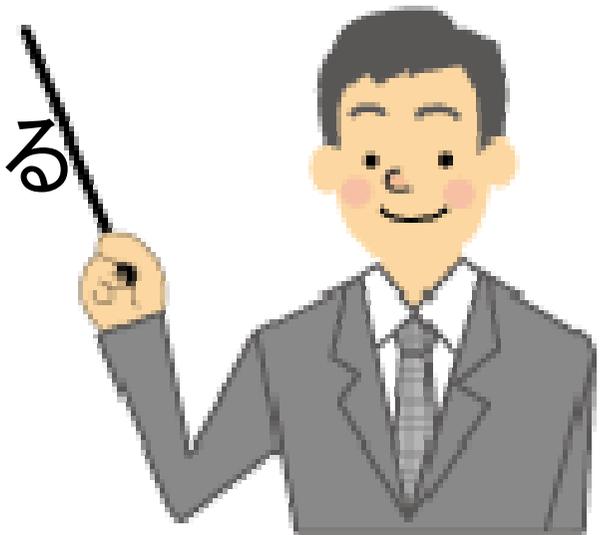
形式的な反応として「はい」と言うスキルを教えたいのではなく、対象生徒が周囲の人に受け入れられ、良好な関係を結んでいくために必要なコミュニケーションとして身につけてほしい。

研究の進め方についての助言①

◎本人にとっての必要性を伝える

<方法>

- ①本人との面談
- ②ロールプレイ
- ③スモールステップで焦点を絞る
(表情については後回し)



助言を受けての見直し

- ① 本人の「気持ち」の部分にも着目する
 - ・面談を通して嫌な表情や態度をとるときの状況や気持ちを聴きとる
 - ・気持ちを言語化・数値化する
 - ・こんな言われ方は嫌だなどについてもきく

- ② 場面を設定してやってみる
 - ・本人がわかりやすい作業場面で設定する
 - ・他の場面でも記録を取っていく

- ③ 記録の取り方について
 - ・教科担任制のため担任の関わる時間帯限定で取っていく

指導の手続き

1. ベースラインの記録…9/1(金)～9/8(金)

【記録場面】朝・帰りのSHR前後、数学、国語、保健、体育、進路

2. 本人との面談…9/8(金)6校時

- ・チェックリスト(みなと独自のもの)を使って進める
- ・具体的な場面や本人の気持ちの聞き取り 等

3. SST1回目…9/15(金)6校時「自立活動」

【指導内容】

- ・学習のゴールと意義を伝える
- ・モデル(VTR教材)を示す
- ・練習する

【教材】ビデオ教材(委託作業を想定した)

【授業のキーワード】

『はい』には、いろいろな意味がある

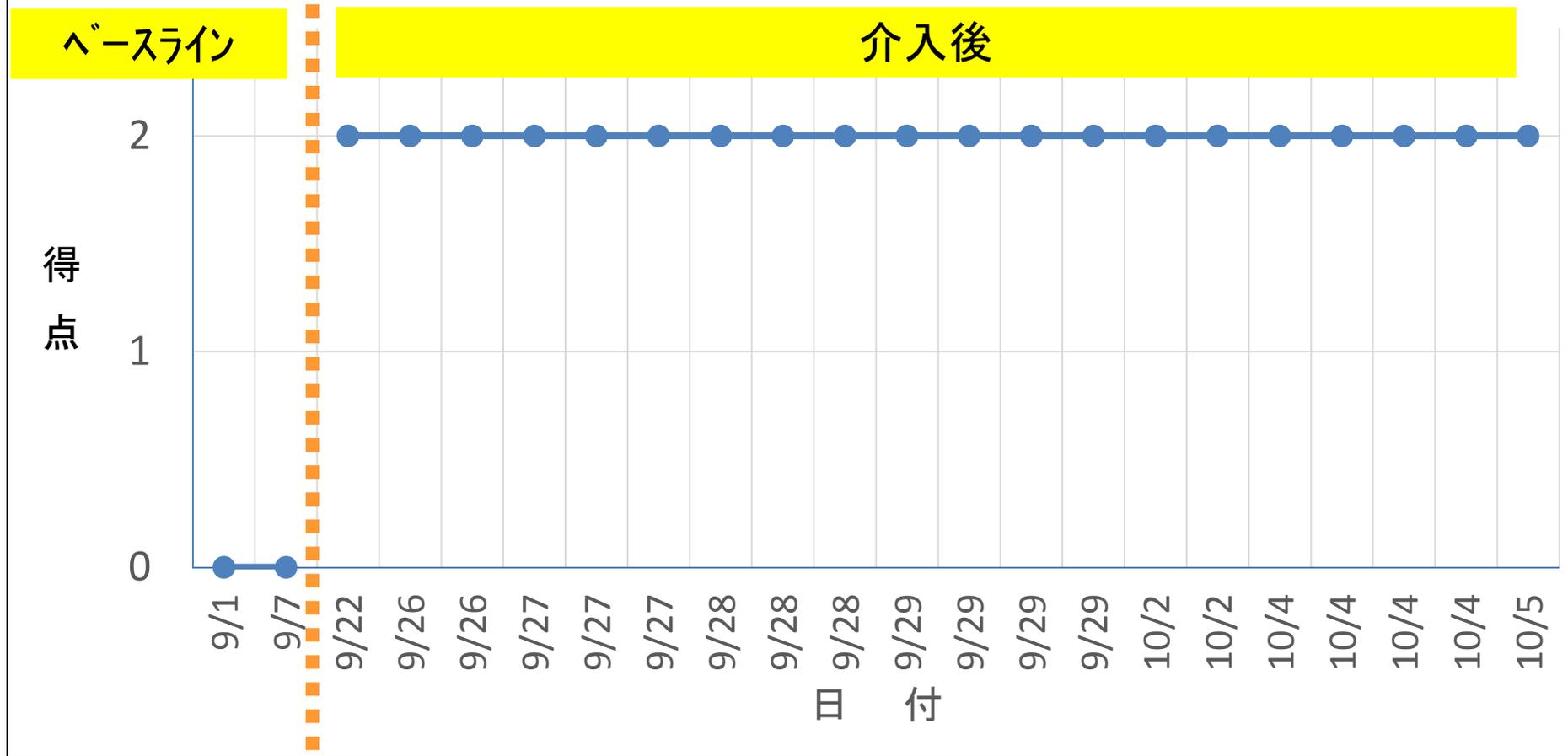


いやな顔をする(イライラ)ときの段階

		どんな気持ち?	どんな時?
(イライラ)の段階 ↑ ↓	弱い	1	朝、はやく起きたばかりの時。 まちがいと指摘された時。 お母さんにあいられた時。 自分 言いたいことが 伝えられなかった時
	2	作業中 (できない・苦手な作業) 失敗したとき	
	3	授業中、話し合っていたところ 指摘されたとき。	
	4	見たい動画が見えなくなった時。 (iPad 禁止される) 2-ステップ中にエラーメッセージが出た時。	
	強い	5	他人に口をねえられた時

9/8(金)
 本人との面談記録
 『これは便利!
 5段階表』を参考

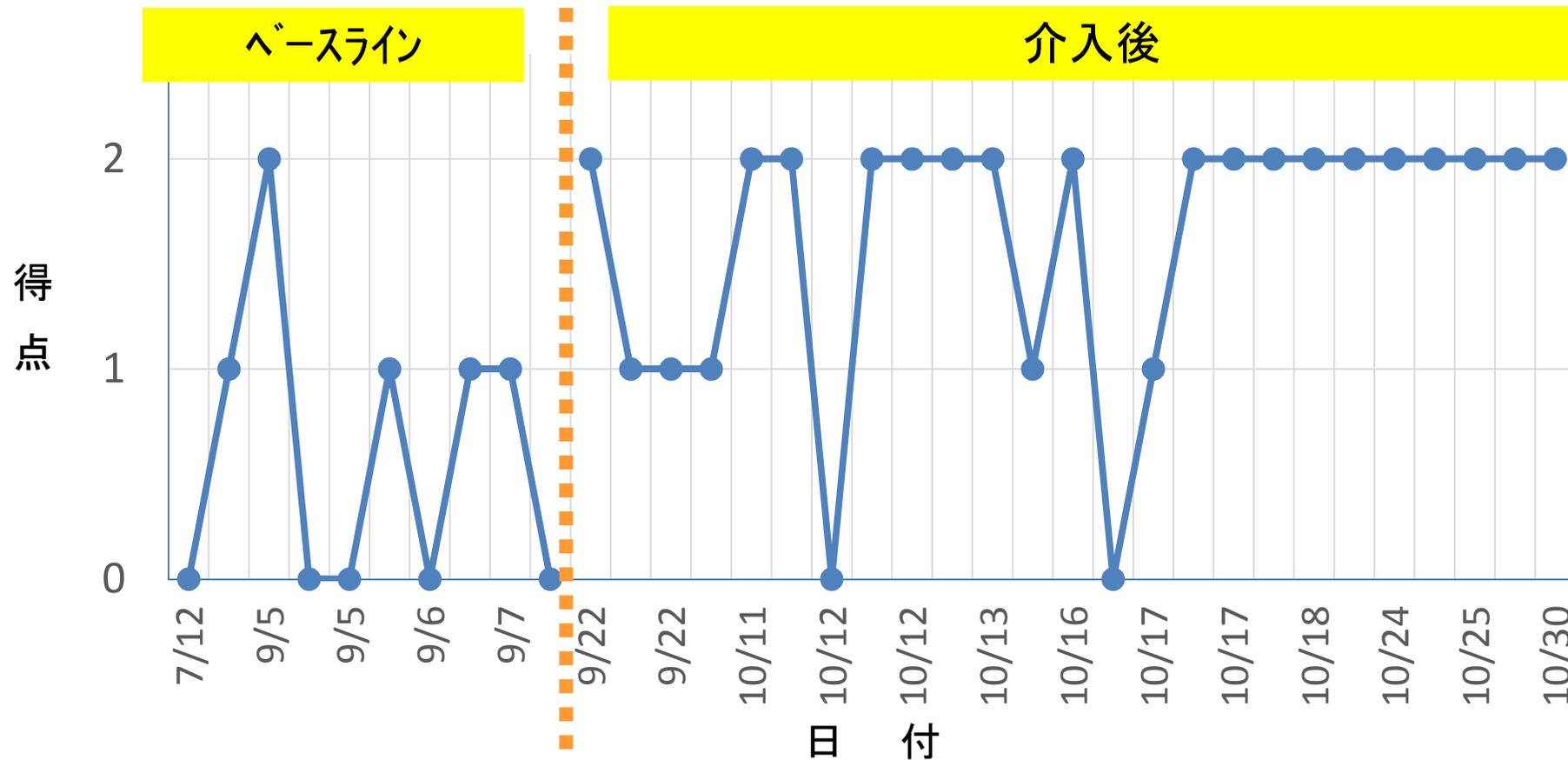
指示に対して、「はい」と返事する。



SST1回目
9月15日

得点
2点...第1声が「はい」
1点...最終的には「はい」と言えた
0点...「はい」と言えなかった

指摘に対して、「はい」と返事する。



SST1回目
9月15日

得点

2点...第1声が「はい」

1点...最終的には「はい」と言えた

0点...「はい」と言えなかった

指導の結果

- 『指示』に対して、必ず「はい」と返事ができた。
- 『指摘』に対して、ほぼすぐに「はい」と言えたが、指摘の意味がよくわからない時や、状況の理解ができない時に「えっ？」などということがあった。
- いやな顔をするのが減ってきた。

研究の進め方についての助言②

現在は、ほぼすぐに
「はい」と言えるようになっている



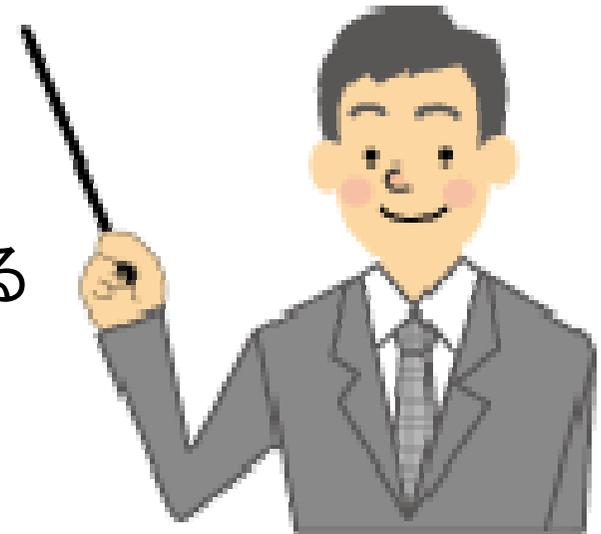
次の段階(発展として)

- ◎「はい」と一度返事をしてから質問するスキル
- ◎「はい」と一度返事をしてから相談するスキル



指導の最終段階として

- 理不尽なことに対する説明ができる
(「はい」と言うべきでないことがあることも教えておくべき)



指導の目標

わからない時に、
「はい+すみません、〇〇〇〇」
(質問・相談)
が出来る。



指導の手続き

- ・SST2回目…11 / 1 (水) 4校時実施
- 【指導内容】
 - ・学習のゴールと意義を伝える
 - ・モデル(VTR教材)を示す
 - ・練習する
- 【教材】ビデオ教材(作業学習を想定した)
- 【授業のキーワード】

『すみません』は魔法の言葉

指導の成果

◎注意や指摘を受けた際の反応の変化

指 導 前	指 導 後
険しい表情をする	➡ 険しい表情が極端に減った
「頭が痛いので保健室に行きたい」と言い逃れようとする	➡ 言い逃れが全くなかった
「え～」「それはちょっと」等の言葉が出る	➡ 「え～」と出ることも時々あるがすぐに適切な返答ができるようになった
謝罪の言葉が出にくい	➡ 「すみません」と謝罪の言葉がすぐに出るようになってきた

ここが成功のポイント

- ・ 他の生徒も巻き込み、クラス全体で取り組んだこと。
- ・ 実際の場面（作業や実習場面）に近い状況を設定し、SSTの指導を行ったこと。
- ・ 指導したいスキルの意味や価値を生徒目線で伝えること。

